

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 5 部門第 2 区分
 【発行日】令和 2 年 7 月 30 日 (2020.7.30)

【公表番号】特表 2018-500518 (P2018-500518A)
 【公表日】平成 30 年 1 月 11 日 (2018.1.11)
 【年通号数】公開・登録公報 2018-001
 【出願番号】特願 2017-531875 (P2017-531875)
 【国際特許分類】

F 1 6 K 31/122 (2006.01)

【F I】

F 1 6 K 31/122

【誤訳訂正書】

【提出日】令和 2 年 6 月 8 日 (2020.6.8)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 2 9

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 2 9】

本発明の好ましい実施形態によれば、キャリブレーションバルブは、第 1 チャンバの圧力が第 2 の値より高いときに閉じるべく構成されている。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 6 0

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 6 0】

駆動チャンバを圧縮空気で充填する時間を短縮するために、図 3 の空気圧制御ユニット 5 2 を図 4 のユニット 1 5 ² に置き換えることができる。図 3 の空気圧制御ユニット 5 2 と同様に、ユニット 1 5 ² は、両方が並列に据え付けられた流れ制限部 1 5 2 ¹ とチェックバルブ 1 5 2 ² とを含む。更に、ユニット 1 5 ² は、圧縮空気源と作動チャンバとの圧力の差が第 1 の値より大きいときにのみ開くべく構成されたキャリブレーションバルブ 1 5 2 ³ を含む。この値は、2 0 0 k P a (2 b a r) ~ 1 , 0 0 0 k P a (1 0 b a r) 、好ましくは 3 0 0 k P a (3 b a r) ~ 8 0 0 k P a (8 b a r) 、より好ましくは 4 0 0 k P a (4 b a r) ~ 6 0 0 k P a (6 b a r) の間に含まれ得る。これは、開動作の開始時に、作動チャンバ内の圧力が 0 に近いいため、キャリブレーションバルブ 1 5 2 ³ の両側の圧力の差が、そのバルブが開き、チャンバを高速に充填することを可能とする程度に十分大きく、その状態が、駆動チャンバ内の圧力が前記バルブの開放を始めるために必要である圧力に近い第 2 の値に達するまで継続することを意味する。キャリブレーションバルブ 1 5 2 ³ が閉じた後、圧縮空気は流れ制限部 1 5 2 ¹ を通ってのみ流れる。